

1人の女の子がたどって行った道

Y・R

戦争もいっぱいあって苦しいこと、悲しいこといっぱいあったけど、最後は幸せでしたというお話です。

これは、ある1人の女の子の話です。産まれた時は、分かるけど誕生日も、付けられた名前も、どこの村、町で産まれたかも、姉妹がいるかどうか分からない女の子がいます。その子は、産まれた時に第二次世界大戦が始まってしまい親に置いていかれてしまいました。でも、その女の子は奇跡てきに助かって生き続けました。

私が、興味を持ったところは、戦争があったのに生き延びた女の子の話だったので、きになって読んだら悲しいこともあったけど、最後は、良いことがいっぱいあったのでこの本を、紹介しようと思いました。

この本は、良いこと、悪いこと、すべてふくんで良いと思いました。そして、私は、命の大切さを改めて知ったような気がします。本には、こうゆうふうを書いてありました。

「近くにいた人達が私をひろいあげて、ある女の人の家につれていってくれました。ユダヤ人の子供を預かるなんて、そのころは命にかかわることでしたが、その女の人は危険をおかして、私を引き取ってくれました。」と書いてありました。私は、これを読んでこの子を拾った女の人もいい人だと思いました。そして、その女の人はその赤ちゃんに「エリカ」という名前を付けました。誕生日も名前も、全部その、女の人が決めてくれました。私は、この本を読んで心から、読んでよかったと思いました。

